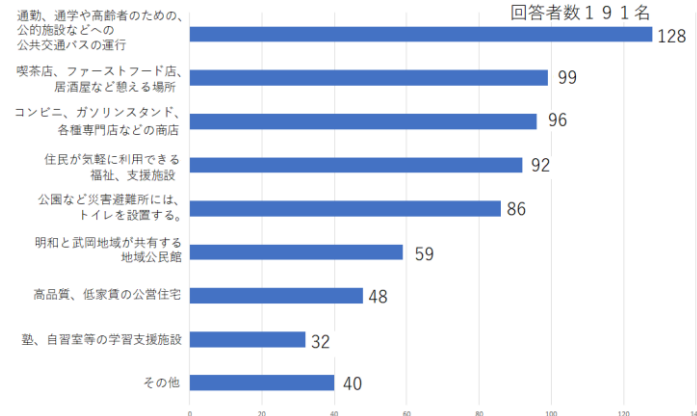


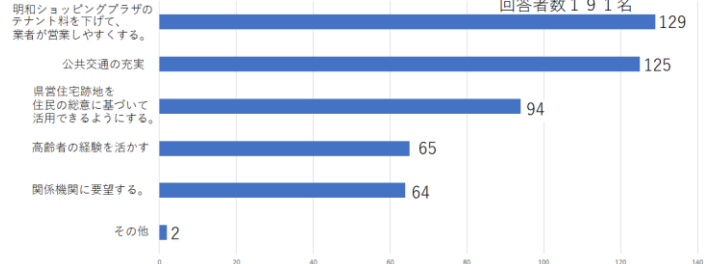
明和の皆様には、9月～10月にお配りした「希望に満ちた明和を作るためのアンケート」にご回答いただき、ありがとうございます。希望に満ちた明和を作る会は、皆様の声に耳を傾けて、住民に寄り添う事業を定着させ、また、公共福祉・サービスを充実させて、人々が集い住もう安心・安全で活気ある明和づくりを目指しています。この活動の一環として、アンケート結果（表面）と今後の活動（裏面）をお伝えします。

グラフ1を見ると、アンケート回答者191名のうちの過半数、ないし、それ近くの方々が、①公共交通バスの運行、②憩える飲食店等、③商店、④住民が気軽に利用できる福祉施設等を、明和に必要な生活基盤サービスとして挙げていることがわかります。このことから、①～④をはじめとした住民に寄り添う事業と公共サービスを定着させることが、希望に満ちた将来の明和づくりに大切な事項であると言えます。

グラフ1 明和に必要な生活基盤サービスは何ですか。選択肢から複数回答



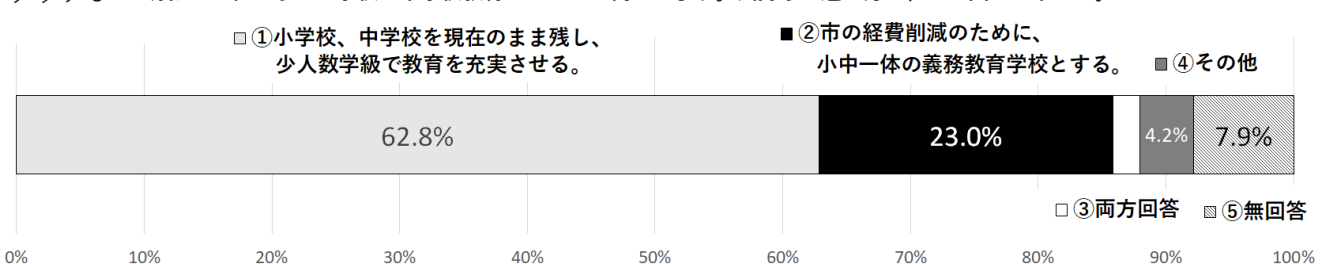
グラフ2 グラフ1で回答した生活基盤サービスを
充実させるために必要な手立て



それでは、上記の事業とサービスの定着に必要な手立てとして、回答者の皆さんは何をお考えでしょうか。グラフ2より、過半数ないしそれ近くの方々が①明和ショッピングプラザのテナント料を下げて業者が営業しやすくすること、②公共交通の充実、③県営住宅跡地の住民の総意に基づく活用を回答しています。これらの手立てを通じて、住民に寄り添う事業と公共サービスを明和に定着させることが大切になります。

ところで、将来の明和小・中学校教育のあり方は、子育て世代の定住に影響し、ひいては明和の将来の活気を左右します。そのため、これからの明和小・中学校の教育のあり方を尋ねました。グラフ3を見ると、62.8%の回答者が「小学校、中学校を現在のまま残し、少人数学級で教育を充実させる」を答え、他の項目を圧倒しています。

グラフ3 明和のこれからの小学校・中学校教育について伺います。気持ちに近い方を、○で囲んで下さい。



（記事は裏面に続きます。）

アンケートに寄せられた声を踏まえて、希望に満ちた明和を作る会は以下の活動に取り組んでいます。

I. 明和小・中学校の将来の在り方の検討について、市教育委員会へ申し入れ

希望に満ちた明和を作る会はアンケート結果を踏まえて、10月7日（月）に市教育委員会を訪ね、明和小・中学校の義務教育学校化の検討過程を見直すよう、申し入れ、ならびに教育長と市長との懇談を要請しました。約40分にわたり、教育整備室長と懇談し、「明和全体がまとまらなないと、この事案は進められない」とのお話を伺いました。なお、この度の申し入れは、教育長と市長にも届けています。そして、市長から「適正化等の検討にあたっては、子供たちの気持ちや、保護者や地域の方々の理解と協力等を得られるよう十分留意しながら進めていくべきものと考えております。明和地域においても、学校、保護者、コミュニティ協議会などの各関係者が横断的に今後の学校の在り方について十分協議し、検討していただきたく存じます。」と返事をいただきました。

II. 明和小・中学校の将来の在り方の検討について、明和中教頭と面談

明和小・中学校の義務教育学校化の検討について、上記の教育整備室長から「長い時間は待てない」と言われました。そのため、希望に満ちた明和を作る会は喫緊の課題として、明和小・中学校の検討過程に明和住民の総意を反映させるべく行動をとりました。具体的には、各町内会で回覧された明和小・中学校の義務教育学校化の検討にかかわる「令和4年度地域PTA 実施報告」について住民から疑念の声が出ていることから、11月4日（金）に明和中に赴き内容を問いいただきました。加えて、住民の疑念を解消すべく、この検討に、従来から携わってきたメンバーに加えて、明和住民の横断的な声を反映することのできる新メンバーを加えるよう、要請しました。

III. 希望に満ちた明和の実現に向けて

今後、本会はショッピングプラザのテナント料と県営住宅跡地の活用について、県当局に働きかけていきます。さらに、これらの住民に寄り添う事業の定着にかかわる事案に公共交通と福祉・サービスの充実を重ね併せて、希望に満ちた明和づくりのために市長との懇談（「市長と語る会」）の実施を計画していきます。